

多角的視点に立脚した包括的な感染症リスク低減

令和4年度における活動実績・成果の概要

①公開シンポジウム「COVID-19と学際研究」感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点 (SDGS-ID) 共催- の実施 (2023年3月18日(土) 13:00-17:00)

本公開シンポジウムでは、「COVID-19と学際研究」と題して、第1部で医学・工学・文学領域の3名の研究者による基調講演、第2部では若手研究者8名の研究成果を発表し、本学の様々な領域研究者によるCOVID-19学際研究の成果を発信した。また、第3部の意見交換では、医学・公衆衛生だけでは解決できない問題となったCOVID-19の課題を克服するために、いかに学際的な研究を推進し、専門領域の枠を超えた多様な「知」を集結して「感染症に対してレジリエントな社会の実現」に貢献するのか、次世代を担う若手研究者と意見交換を行った。

東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点・社会にインパクトある研究_C3感染症超克共催
第3回 SDGS-ID 公開シンポジウム

COVID-19と学際研究

2023年 3月18日(土) 13:00~17:00

会場 オンライン (Zoom)

参加登録 <https://forms.gle/teiwLupcTsd8Mh7w6>
登録締切: 3月17日(金) 15:00



【概要】
医学・公衆衛生だけでは解決できない問題となったCOVID-19の課題を克服するためには、自然科学のみならず人文・社会科学を主軸とした学際的な取り組みが必要である。本シンポジウムでは、3名の拠点研究員の基調講演に加え、次世代を担う若手研究者8名に研究成果を届ける。このシンポジウムを通して、専門領域の枠を超えた多様な「知」をいかに集結し、学際的な研究を推進・実施させ、「感染症に対してレジリエントな社会の実現」に貢献していくのを考えてみたい。

13:00-13:05
オープニング 右井謙一 (医学系研究科・教授)
あいさつ 小沢元子 (東北大学理事・副学長)

13:05-14:35
第一部 基調講演

押谷仁 (医学系研究科・教授)
「COVID-19のパンデミックから明らかになった総合知の必要性とその課題」

佐野大輔 (工学研究科・教授)
「土木環境工学と公衆衛生」

佐藤弘夫 (文学研究科・教授)
「死者たちの因襲
ー変動する日本人の死生観」

14:40-16:20
第二部 若手研究者発表

【発表者】
今村剛朗 (医学系研究科・助教)
高宗亮平 (医体科学研究科・教授)
草野太郎 (医学研究科・助教)
CHOI JEYOUN (医学系研究科・大学院生)
永田彰平 (環境科学研究科・助教)
藤原優 (東北アジア研究センター・助教)
増田友哉 (文学研究科・大学院生)

16:20-16:55
第三部 意見交換

アクリルシールド
高橋誠 (医学研究科・助教)

16:55-17:00
クロージング

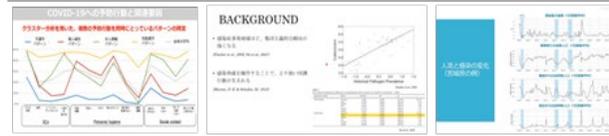
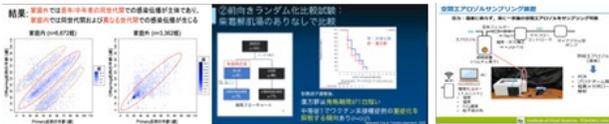
講演要旨

II 基調講演

押谷仁 (医学系研究科・教授)
「COVID-19のパンデミックから明らかになった総合知の必要性とその課題」



II 若手研究者発表



発表者: 左上から
今村剛朗 (医学系研究科・助教)
有田龍太郎 (医学系研究科・助教)
高宗亮平 (医体科学研究科・教授)
草野太郎 (医学研究科・助教)
CHOI JEYOUN (医学系研究科・大学院生)
永田彰平 (環境科学研究科・特任研究員)
藤原優 (東北アジア研究センター・助教)
増田友哉 (文学研究科・大学院生)



佐野大輔 (工学研究科・教授)
「土木環境工学と公衆衛生」

佐藤弘夫 (文学研究科・教授)
「死者たちの因襲
ー変動する日本人の死生観」

コスモロジー論のねらい
・「日本論」の定説・専断のバージョンアップ
近世はこれまで以上に異なる (柳田泉)
日本文化の基盤にあるのは「よこしま」 (柳田泉)
・日本文化「物哀論」の発展と他地域と比較可能な
「魂」のアップデート 文化論の構築
・異文化のなかで日本人の道徳性を再検討し
歴史的文化で現代社会の基盤を築く



意見交換時のパネリストの様子



多角的視点に立脚した包括的な感染症リスク低減

令和4年度における活動実績・成果の概要

②クロストークミーティング「コロナとこれからの社会を広く深く考える会」の実施

本会は、COVID-19による社会全体の影響や、次のパンデミックに対しレジリエントな社会を創るために何が必要かを議論するために2023年1月に設立されたものである。クロストークミーティングは自由な討論を基本として、本学の研究者、次の時代を担う若手研究者や学生が、真の学際研究や総合知とは何かを考えるきっかけにしたいと考え実施してきている。

令和4年度は、クロストークミーティングを3回開催し、COVID-19から明らかになったさまざまな社会課題について、社会科学・人文科学・自然科学の専門家の知見をもとに、活発な議論を展開している。



教室の様子（ハイブリッド開催）

II クロストークミーティング「コロナとこれからの社会を広く深く考える会」

	議論テーマ	話題提供者	開催日時
第1回	総論 「歴史の転換期に起きたCOVID-19パンデミックと総合知の必要性」	押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 教授）	2023年1月11日 18:00-20:00
第2回	「COVID-19パンデミックから明らかになったグローバル・ヘルス・ガバナンスの課題」	押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 教授） 植木 俊哉（東北大学理事・副学長 / 法学部 教授） 武見 綾子（東京大学先端科学技術センター グローバル合意形成政策分野 准教授）	2023年2月15日 18:00-20:30
第3回	「コロナの死をどう捉えるか」	押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 教授） 木村 敏明（東北大学大学院文学研究科 宗教学分野 教授）	2023年3月8日 18:00-20:30

関連ホームページ

クロストークミーティング「コロナとこれからの社会を広く深く考える会報告」 <http://www.virology.med.tohoku.ac.jp/ja/ct-meeting.html>